

天文学とプラネタリウム

第96回



今月のお題

うちから星空



住んでいる場所で宇宙に触れる、今年はそんな活動を充実させていただきます。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)
平松正顕 (国立天文台ALMA推進室)

マンションの裏手にある、うっそうと茂った森の中。陽があるうちは子どもが走り回る楽しい場所も、日暮れ後には人気もなく、別世界のようです。でも、この日は違います。「あー、見えたー!」「木星って、あの星?」「オリオン座だー」と、あちこちから歓声が上がり、月明かりの中、ずらっと並んだ天体望遠鏡の前に、たくさんのお子さんが集まっています。

天プラの新しい試み

この日行われたのは、とあるマンション群の自治会主催の天体観望会。天プラは、その実行部隊としてスタッフを派遣し、屋外での星空案内と、室内での天文トークを担当しました。参加した親子は約 200 名。すべて、そのマンション群の住人の皆さんです。晴天にも恵まれ、月や惑星、冬の星々を楽しむことができました。

そもそも、このイベントは、2012 年の活動として天プラが目標に掲げる「天文学の楽しみを、日常に」というコンセプトの下、計画されました。日常で天文学を楽しむ方法はいろいろ

あると思いますが、自分が住んでいるところで楽しむというのは、もっとも有効な方法のひとつでしょう。

天文台や、小学校の校庭まで出向いてもらうのではなく、住んでるおうちで天体観望会ができないものか。そんな事を考えていた時に紹介されたのが、有限会社セルフフィッシュネスさんでした。地域でのコミュニティ作りを中心に活動しており、集合住宅でのイベント企画等も行っているセルフフィッシュネスさんは、天プラにとってはまさにうってつけのパートナー。ぜひマンションで天文イベントを! ということで、話をつないでいただき、実現したのが冒頭の天体観望会でした。

雨天曇天時にどのようなプログラムを用意するか等、運営上で検討すべき課題も多々ありましたが、結論としては、このような活動はどんどん広げるべきだと感じました。自宅の裏庭的な場所で行ったため、家族で気軽に参加しやすいのが素晴らしい。遠出はちょっと……というおじいちゃんおばあちゃんも出てくることができ、3 世代での参加というケースもありました。特別な場所に出かけて星空を眺める経験も素晴



観望会の会場に設置された望遠鏡たち。

らしいですが、自宅という日常空間から星空を眺める経験も、とても価値があるものだと思います。

星ナビ読者の皆さんの中にも、集合住宅に住まわれている方も少なくないと思います。皆さんの地域でも、ぜひ天体観望会をやりませんか? その際は、ぜひ天プラにご一報を。